

第5次亶理町総合発展計画 後期基本計画（案）等の意見募集結果について

第5次亶理町総合発展計画 後期基本計画（案）、第2期亶理町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）、第2期亶理町人口ビジョン（案）に対する意見募集を行った結果は、次のとおりです。

1. 意見の受付期間

令和2年11月2日から令和2年11月16日まで（2週間）

2. 閲覧場所

（1）亶理町企画課（2）亶理町公式ホームページ

3. 提出方法

持参・郵送・ファックス・メール（亶理町公式ホームページ内「お問い合わせコーナー」）

4. 提出先

亶理町企画課

5. ご意見の応募者数

（1）持参 2人

（2）郵送 1人

（3）メール等 2人

計5人

1. 後期基本計画について

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え(案)
№1	—	—	<p>亶理町HPにある3資料をざっと見ました。細かいことは別に、<u>亶理町の今後の将来見通しとして、いつまでも期待を抱かせる発展計画だけではない、「縮小していく現実的な予測(事実の公表)等に対する計画の方向性を5年後に検討する」などを、行政の責任として記述していくべきと思います。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見ありがとうございます。町として、長期的に人口が減少し、町の規模が縮小していくことは、日本の情勢からしても避けられないことと認識しています。そのような見通しの中でも、町民の皆様が住みよく豊かに暮らせる町を目指すための「総合発展計画(後期基本計画)」を検討しているところです。 ・ご指摘いただいた視点は、前段の「計画策定にあたって」に記載予定の「亶理町の現状と課題」において加味し、整理いたします。
№2	—	—	<p>震災復興で町の設備が増加しました。今後の維持管理を考え、適正な財政を維持するため、もうこれ以上増やさない(改築は良いと思います)行政を目指すべきと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前期からの主な見直しの視点のひとつとして、「前期基本計画において整備・改修済みの施設や計画等について、『維持管理』『利活用』へ変更」、「既存施設の『長寿命化』」を挙げ、全体的に見直しを行っています。
№3	—	—	<p>ただし、若い子育て世代への支援は絶対必要で、「自助」だけではなく、無くて良いような高齢者への支援や、既得権的な長年継続している補助などを多少減らしても取り組むべきと思います。子育て世代への支援はリスク覚悟で思い切った施策が必要で、ちびちびやっても人気のある富谷市などとの自治体と差別化できなく、勝負にならないと考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の強化は、町民アンケート結果や計画策定審議会でも、強く要望されている事項です。 ・これらを受け、後期基本計画において、第3章「5児童福祉・子育て支援対策の充実」の記載内容を充実させ、町民への周知を強く図ることとしました。 ・また、第2期総合戦略においても、子育て支援対策事業を継続するとともに、新たに「健やかな子どもの成長を支える子育て世代への切れ目のない支援」を追加しています。 ・町民のニーズや社会情勢の変化に対応できる取組などについては、今後も関連計画等含め、継続して検討していきます。

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え（案）
No4	—	—	<p>財政の効率化のため、ライフラインの区域を拡大しないよう制限し、リスクがありますが既成市街地の空き家や空き地を町が購入し、新住民となる子育て世代に安く供給するなど、思い切った対策がなければ人口維持は難しいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や空き地については、町民等の財産であるため、町が積極的に介入することは、現状困難であると考えられます。 ・今回第2章に、「希望者が空き家と小規模農地を同時取得・借受できるしくみを構築」、「空き家や公共施設の空き室を活用したコワーキングスペース」等の提供を新規事業として追加しています。 ・なお、『互理町都市計画マスタープラン』において、「都市的土地利用は、用途地域内への配置を基本とし、コンパクトな市街地の形成を図ります。」との位置づけがなされています。
No5	—	—	<p>ちょっとした提案として、互理町でのまつり開催時や、はらこ飯やほつき飯などのお店に、観光パンフレットのほかに「子育て世代への支援や移住」がある具体的なPRパンフレットをおいてもらい、広報対策で多様化すべきと考えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略の事業として、移住・交流PRチラシの作成や観光情報誌掲載などを実施しました。いただいたご意見を担当課と共有し、今後施策を実行する中で参考とさせていただくとともに、SNS等を含めた様々な媒体での広報活動を強化していきます。
No6	—	—	<p>2 ページの将来都市像の文言「山と川、里と海…」について、山と川、里と海を表記した理由を質問したが、明確な理由がなかった。町民誰にも理解させられる言葉がないなら、変えるべきと思う。</p> <p>私の意見としては、「山、川、海」は古来からある自然環境であり、「里」は前の三者の間にある、人間の営みがづくり出した平野部だろう。「人」はそれらの間を行き来し、何らかの作用をもたらし、ひとの住む「まち」として行くものと思うが、いかがだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「山と川、里と海」については、ご提示いただいたお考えの通りです。 ・将来都市像は、後期基本計画（総合戦略を含みます）の前提である「基本構想」において、平成28年度に設定したもので、この基本構想は計画期間である10年間に変えないものとしています。 ・総合戦略の2ページにお示ししたとおり、将来都市像のキーワードとして、「山と川、里と海がワンセット」「時代で後世に繋いでいく」「定住促進という大きな課題の解決」を整理し、基本戦略等との整合性を図りつつ、審議会等を通して設定したものです。 ・パブリックコメント資料にはお示ししませんでした。最終的には計画書の前段に、基本構想の概要も追加いたします。

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え（案）
№7	P6	第1章 6 公園・緑地の整備(2)	<p>わたりっ子を育てる会では、町内の公園を調べて公園マップを作成して情報発信しています。町内には色々楽しめる公園がありますが、新しい公園が整備されることは大変うれしく思います。</p> <p>子育て家庭への公園情報発信の方法として、新しい情報が随時更新できるように、マップの他に子育て支援メールやアプリなどを活用するように検討いただきたいと思います。</p> <p>町民が安全に、安心して利用できるように、草刈りなど維持管理の充実をお願いします。</p> <p>また、地域住民が参加し、公園を利用して季節を楽しめるイベントの企画運営など、検討してはどうでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種情報発信については、SNS等の活用を含め強化していく旨を追加しています。 また、公園の維持管理については、第1章「6 公園・緑地の整備」で位置づけております。 寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№8	P18	第3章 1 学校教育の充実(2)	<p>亘理町は肥満傾向の児童生徒が多いようです。健康な体作りの基礎を子どものうちからしっかり身につけられるように、運動や食育の充実を検討いただきたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの肥満を含めた課題解決に大きく貢献する「家庭教育の強化や普及」について、第3章、第4章に追記しました。 また、運動や食育は第4章に位置づけがあります。 寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№9	P18	第3章 1 学校教育の充実(2)	<p>コロナウイルス感染拡大対策、不登校児童生徒への対応として、オンライン授業は必要になっていくと考えられるので、教育環境の整備や充実を希望します。</p> <p>同じ時間、同じ場所で、集団で行う画一的な今の授業体制では、一人ひとりが積極的に自立した学習を進められるのか、少し疑問に感じます。これからは、より独創的でグローバルな成長が大事だと思われれます。</p> <p>それと同時に、学力がある程度到達できていない子どもには、寄り添って学力を伸ばして欲しいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町としてもコロナウイルス感染対策関連としての新しい教育環境や設備の充実は急務と捉え、第3章に内容を追記しています。 また、特に支援を必要とする子どもや家庭への支援についても、位置づけています。 寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え（案）
№10	P30	第4章 5 児童福祉・子育て支援対策の充実(1)	核家族化、近くに頼れる人がいない家庭、働きたいママ達など、子育て家庭の状況はだいぶ変化していると感じます。子育てのサポート体制の整備として、待機児童ゼロを目指すほかに、質の高い子育て支援を提供できるように、保育士の確保と研修の充実を期待します。	<ul style="list-style-type: none"> 寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№11	P35	第4章 5 児童福祉・子育て支援対策の充実(3)③	「不登校等の支援体制の強化」について、宮城県は不登校児童生徒が多いようです。中学校卒業後の子どもについて、引きこもりやニートとならないよう、引き続き見守りができる支援や相談窓口の整備を希望します。	<ul style="list-style-type: none"> 当該項目に位置づけたとおりですが、寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№12	P36	第4章 6 高齢者福祉の充実(3)(4)	健康な生活を送るには疾病予防が大切です。いろいろな教室や事業が計画されていますが、送迎や循環バスの交通手段の確保など、高齢者でも参加しやすい環境、事業の周知や情報発信に努めて欲しいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉充実の一環として、「(3)保健指導や健康教育の充実」を新規事業として追加しました。 また、さざんか号やわたりん号の維持を、第1章「3道路・交通網の整備」に位置づけ、利用方法の周知を追記しています。 寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№13	—	—	現状では公民館の事業と各まちづくり協議会の事業とで、同じような行事があつたりして、仕分けがあいまいです。総合発展計画では、まちづくり協議会については企画課が担当していて、生涯学習課との連携があるようには書かれていません。もっと両者の関連性を大切にするような記述があっても良いのではないのでしょうか。それとも全く独立に活動したほうが良いとする議論があつたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり協議会に関する事業は、企画課が主管課となっていますが、生涯学習課含め、必要に応じ庁内横断的に取組を実施しています。 寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№14	—	—	はらこ飯DEスタンプラリーについてとても良いアイデアなのですが、今年はらこ飯を5回食べに行って1度も店舗側からスタンプラリーの事を話されず、こちら側から頼んでスタンプカードを貰いました。ただ、アイデアとしては非常に良いので、来年以降も継続していただきたいです。	<ul style="list-style-type: none"> ご意見いただきありがとうございます。ご意見は担当の商工観光課に改めて共有するとともに、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。 なお、はらこめしについては、第2章1「(8)水産業の振興」において、亘理町ならではのはらこめしの伝承に努める旨を記載しております。

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え(案)
№15	—	—	<p>沿岸部の空き地の活用について</p> <p>キャンプおよびグランピングを楽しめる施設があれば、県内外からもっと多くの人を訪れると思います。町内の商業施設で買い物すればサイト料が割引かれるなどの工夫があれば、なお良いでしょう。入浴は鳥の海温泉が近くであれば、そこに行くと思います。</p> <p>わちゃりを借りれるようにすれば、ついでにサイクリングも楽しむでしょう。カヤックやヨットを楽しめる施設もあるので既に周辺環境は整っていると思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアをご提案いただきありがとうございます。総合戦略において、基本目標2：交流人口拡大に係る事業（検討事項）として、場所などは未定ですが、「オートキャンプ場など、キャンプ施設の整備の検討」を位置づけています。また、総合計画の第2章「4 観光の振興」では、わたり温泉鳥の海を町の観光・交流拠点として位置づける旨を記載しているところです。 ・寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
№16	—	—	<p>植樹について</p> <p>空き地があるなら苗木を植えるのはいかがでしょうか。クラウドファンディングでも事業者が対象でも良いと思います。</p> <p>苗木の価格に500円程度プラスした金額設定にして、カップルや家族が苗木を植える場所を作る。例えば昔あったような暴風林を戻す第1歩として沿岸に。それか沿岸部の道の両側に落葉樹を植えれば、将来的には紅葉ロードとして多くの観光客が訪れると思います。苗木は地面にプレートを1つずつ埋める形式にして好きな文字を入れられるようにする。</p> <p>町外の住民も植えた苗木を見に互理に足を運びますし、何より互理が町民以外の誰かにとって「思い出」に変わるかもしれません。恋人同士なら結婚して互理に引っ越すかもしれませんし、家族もいつか亡くなるのは避けられないので、きっとみんなにとって大切な場所になります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアをご提案いただきありがとうございます。寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。

2. 第2期総合戦略、第2期人口ビジョンについて

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え(案)
No17	—	【総合計画】 【総合戦略】 【人口ビジョン】	総合発展計画の基本である町民人口の推計となる将来展望では、『必要です』『図られた場合』や『拡大する』『努める』『取り組む』と記載されており、日本語の意味からは「できないけど頑張る」と理解されると思います。 次期計画では、『タラレバ』ではない、互理町で解決できる実現可能な計画を、そろそろ始めないといけないと思います。	<ul style="list-style-type: none"> 貴重なご意見ありがとうございます。No.1でも回答したとおり、人口減少に伴う町の「縮小」という情勢の中でも、持続可能で住みよい互理町の実現のための計画を検討しているところです。 第3期計画策定においては、KPIの達成状況等を確認しつつ、いただいたご意見や視点も加味して検討してまいります。
No18	—	—	自治体等の計画として一番の前提は、人口ビジョンの資料に示す人口総数と年齢分布などの予測です。特に、これまでの発展計画での値と実績値の乖離を見れば、ある程度将来が予測されるはずで、(今回は期待的な予想と想定されます。) 人口ビジョンの検討ケース①、②、③では、「～れば」の、ある意味そんなに人口が低下しない期待をもとに想定しているようです。しかし、実際はケース④の予測グラフのとおり、町民総人口が低下し、少子高齢化だけが進む可能性もあり得ます。今回の総合発展計画に無くて良いかもしれませんが、次回からは行政のしっかりした説明責任として、きちんとマイナス情報も伝える義務があると思います。	<ul style="list-style-type: none"> 国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」といいます。)で推計した将来人口は、過去の人口動向から推測される値により推計している＝このままの状況が進んだ場合を前提としています。 人口ビジョンは、まずそれを認識した上で、ケース①～③のように状況を好転させた場合を想定して推計し、目指すべき人口規模を検討するものです。 社人研推計結果はある意味マイナスの情報であり、行政が認識すべき基本的な課題であることを念頭に、情報を適時公開しつつ、次期計画等の策定に生かしてまいります。
No19	—	—	<u>数値に基づいた人口推計をもとに、「町が縮小する」事実を受け止め、今後すべての住民が困らない、「(発展だけではない)守り的な計画などの施策」を、そろそろ考え始めても良い時期と思います。</u> 約20年前、仙台市から互理町に移住してきた住民として、ほぼ予想したとおり「暮らしやすい静かな田舎」と感じております。本意見が参考となればと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ご意見いただきありがとうございます。寄せられたご意見や視点は、今後施策を実行する中で参考とさせていただきます。
No20	P25 ～	【人口ビジョン】 2 将来人口の推計 3 人口の将来展望	25ページから長期的に人口が減少していくことが、分かりやすく説明してあり、その減少を抑制すべきことが述べられている。	<ul style="list-style-type: none"> 35ページに示した「基本的視点」を踏まえ、将来人口の展望を検討しています。

	頁	項目	パブコメ意見	町の考え(案)
			34 ページからは、その対策に触れているが、実際、幅の違いはあれ、減少していくことが間違いないのであれば(増加や横ばいについての指摘はされていない)、そうであってもいかに快適で、ずっと住みやすいまちとするにはどういった施策を施していくかについて、何ら説明がなされていない。それで良いのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な施策については、同じく公表した「第2期互理町まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」において検討し、位置づけています。人口ビジョンで方向性を確認→総合戦略で施策を位置づけという流れになっており、最終的には後期基本計画の一部として組み入れます。 計画書には、これら3つの計画の関係性や構成について、追記いたします。
No21	P12	【総合戦略】 K P I	互理町のシルバー人材センターに入会し約1年になり、時々仕事をしています。すでにメンバーの高齢化や次世代会員の減少により、新規会員の増加や維持が見込めないように感じます。	<ul style="list-style-type: none"> 第1期計画でのK P I「シルバー人材センター会員数」は、現況値(H27)323人に対して目標値(R1)350人を掲げていましたが、実測値は323人と、5年間でも横ばいの状況でした。 第2期計画でも「若者から高齢者までの就業支援」を施策として位置づけており、今後も高齢者の就業・社会参加の場の充実を目指してまいります。